# 幼児のパソコン利用に関する調査
## ―保護者へのアンケートより―

松　山　由美子・村　上　　涼・堀　田　博　史
松　河　秀　哉・森　田　健　宏・吉　崎　弘　一

家庭へのメディア普及が著しい中、子どものメディア活用に関する調査は行われているが、それらは主に児童期以降を対象としたものであり、幼児期についての調査は比較的少ない。また、幼稚園や保育所の保育でのメディア活用の調査はいくつか見られるが、家庭でのメディア利用についての調査はまだ少ない。

本研究では、家庭における子どものパソコン利用についての実態を明らかにするために、質問紙による調査を行った。幼児のパソコン利用については、保護者の保育観や子ども観に大きな影響を受けるとの仮説から、調査対象を「パソコンを活用した保育を実践している幼稚園や保育所」と「パソコンを活用した保育は実践していない幼稚園や保育所」の保護者と分けて結果を比較している。

主な結果の要約は3点である。1）保護者の価値観に関わらず、パソコンを初めて使うのはおおむね3歳あたりで、ゲームやお絵描きソフト、知育ソフトで遊ぶことが多く、また1回あたり30分弱遊ぶことが明らかになった。保護者は、このような子どもの姿を見て、楽しそうにしていると思う反面、健康面や精神・情緒面、社会性の発達に影響があるのではないかと心配している。2）保護者が子どものパソコン遊びについて幼稚園や保育所でも活用することに抵抗を感じていない場合、子どもがパソコン遊びをしている間も近くにいたり会話を楽しんだりしてコミュニケーションを深めている傾向がある。3）保護者にとって、幼稚園や保育所でのパソコンを使った遊びを保育内容として扱うことについては、保護者の子ども観や保育観に関わらず約46％が「どちらともいえない」と回答しており、保護者の価値観にもよるが、6～8割の保護者が幼稚園や保育所でのパソコン遊びを否定はしていないことが分かった。なお、保育でのパソコン遊びに対して否定的ではない保護者が、パソコンを活用した保育に求めるイメージは、「週1回30分、2～3人に1台のパソコンで、知育ソフトやパズル、お絵描きソフトでの遊び」であった。

最後に、本調査の結果を、保育現場や保育者養成にどのように活かすことができるかをまとめた。

**キーワード**：幼児のパソコン遊び，メディア利用，保育とメディア

### 1．本研究の背景

今後の情報化社会を捉え、幼稚園や保育所（園）でもパソコンをはじめとした様々なメディアを取り入れるところもわずかではあるが増えてきており、保育現場でのメディア利用については、放送教育の活用だけではなく、パソコンを活用した保育実践に関する調査や報告もされ

てきた。しかし、このようなメディアを活用した保育実践に対する保護者の意見や、幼児の家庭でのメディア接触については、時間が増えている等の報告はあるが、その実態などはまだ明らかになっている部分が少ない。また、その際調査されるメディアもテレビ番組およびテレビゲームが主である。特に、パソコン利用の調査に関しては、内閣府（2010）の調査を見ても、小学校以上の子どもを対象とした保護者への調査である。また、小学校以上のメディア保有及び活用の研究の成果もあり、幼稚園や保育所における利用調査はあるものの、特に乳幼児期の家庭での利用実態を明らかにするような調査は今後の研究に期待されているところである（小平2009）。

そこで、幼稚園や保育所に子どもを通わせている保護者に対して、幼児のメディアを利用した遊びについて、その是非や家庭における遊びのあり方、大人の関わり方などの詳細について調査することとした。

しかし、幼児教育におけるメディア活用について否定的な幼稚園や保育所も多く（村上・松山ほか2010）、そのうえ、幼稚園については保育所や小学校以上の教育とは違い、保護者が幼稚園の保育観から選択しているという現状がある。そこで、今回保護者調査をお願いする幼稚園や保育所の選択には、地域が偏らないようにし、さらにその中で、保育中、子どもにメディアを活用するようなカリキュラムを実施している幼稚園･保育所（以降、メディア活用園）と、保育にメディアを活用していない幼稚園・保育所（以降、メディア非活用園）を別に選び、それぞれの保護者の意識や家庭での姿を明らかにすることにした。

## ２．調査方法

先行研究や、村上・松山ほか（2010）における保育者対象に行った「子どものメディア利用に対する調査」を参考に、メディア活用園とメディア非活用園の保護者を対象に質問紙調査を行った。園の選定については、地域が偏らないように考慮し、また、それぞれに幼稚園と保育所、私立と公立（国立）を含むように調査依頼を行った。調査時期は2009年10月～11月で、調査対象は３～５歳児の保護者とした。５園のメディア活用園の保護者690名、４園のメディア非活用園の保護者805名にお願いし、うち有効回答数はメディア活用園429名（有効回答率62.2％）、非メディア活用園483名（有効回答率60.0％）であった。

## ３．本研究の結果

調査は、（１）回答した保護者とその家庭に関する実態調査、（２）保護者の「子どもがパソコンを使用する」ことに対しての意識調査、（３）保護者の「幼稚園や保育所で子どもがパソコンを使って遊ぶ」ことに対しての意識調査、に大きく分かれている。以下、順に調査結果を報告する。

### （１）回答した保護者とその家庭に関する実態調査

調査に回答した保護者（幼稚園もしくは保育所に３歳児～５歳児の子どもを通わせている）および、その家庭におけるパソコン保有率などはTable.1のとおりである。

**Table.1　回答した保護者と家庭のようす**

| | メディア活用園 | メディア非活用園 |
|---|---|---|
| 保護者の平均年齢 | 35.3 歳 | 36.1 歳 |
| 家庭のパソコン保有率 | 90.9% | 94.0% |
| 家庭における子どものパソコン使用率 | 30.1% | 32.1% |
| 子どもが初めてパソコンを使った年齢 | 3.54 歳 | 3.44 歳 |
| 子どもが１回のパソコンで遊びに費やす時間 | 平均 26.9 分 | 平均 28.7 分 |

子どもが通っている幼稚園・保育所でのメディアの活用／非活用にかかわらず、パソコンの保有率は90%を超え、子どもがパソコンを使う割合は３割程度であるが、その子どもたちが最初にパソコンに接触する年齢もおおよそ3.4 ～ 3.5歳であった。

この結果は、西村（2010）の「乳幼児期（０－５歳児）のメディアライフ」報告の中の、テレビ接触は０歳児から始まり、1歳児でピークを迎え、２歳児でビデオ接触･視聴が85%となり、ゲームへの接触率が43.6%と高くなる５歳児という姿と比較すると、パソコンへの接触は、ちょうどテレビやビデオ接触・視聴と、ゲーム専用機やポータブルゲーム機への接触の中間に位置すると思われる。

子どものパソコン接触については、保護者の保育観や保護者が通わせている子どもの幼稚園や保育所の保育観にかかわらず似たような傾向がある。

メディア活用園の子どもとメディア非活用園の子どもとの間で差が見られたのは、パソコンで遊ぶ時の人数である。Table.2のとおり、メディア活用園の子どもは、家庭でパソコンを使用して遊ぶ時には、父母または兄弟姉妹と遊ぶ傾向があるが、メディア非活用園の子どもは「母親と一緒に遊ぶ」の次に「１人で遊んでいる」子どもが多いという結果となった。

**Table.2　誰とパソコンで遊ぶか（複数回答あり：単位：%）**

| | １人 | 友達 | 兄弟姉妹 | 父 | 母 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| メディア活用園 | 30.2 | 2.3 | 48.8 | 61.2 | 62.0 | 3.1 |
| メディア非活用園 | 46.5 | 2.6 | 36.1 | 45.8 | 54.8 | 3.2 |

また、回答した保護者に対して、子どもがパソコンで遊んでいる時に主にどうしているかを尋ねた結果がTable.3である。どちらも「子どもが分からないことは教えるが、あとは子どもに任せる」と回答した保護者が多いが、若干メディア非活用園の保護者の方にその傾向がある。さらに、一緒に会話しながら楽しむ保護者が多いのは、メディア活用園の保護者であることが明らかになった。なお、その他に書かれた意見としては「遠くから見ている」「子どもは膝の上に乗せ、操作は保護者が行う」等であった。

子どもとメディアの関係でいえば、子どものテレビ視聴について、子どものテレビ視聴の際に保護者や保育者といった大人が同席してコミュニケーションをとることで、むしろ大人とのコミュニケーションが増え、子どもにもよい影響を与えるという報告（渡辺2010）がある。これはパソコン使用についても同様に、保護者のコミュニケーションの取り方やパソコン利用の

**Table.3　子どもがパソコンで遊んでいる時、保護者は何をしているか（単位：%）**

| | メディア活用園 | メディア非活用園 |
|---|---|---|
| じっと見ている | 6.1 | 8.7 |
| 一緒に会話しながら楽しむ | 43.5 | 33.1 |
| 積極的に子どもに教える | 0 | 1.7 |
| 子どもが分からないことだけ教え、あとは任せる | 48.7 | 51.2 |
| その他 | 1.7 | 5.2 |

意識や行動が、子どもをパソコンと１対１の関係にとどめたり、逆に親子のコミュニケーションに役立てたりする（堀田・潟辺1999）という結果がある。今回の調査結果からも、メディア活用園に子どもを通わせる保護者は「メディアを子どもが活用すること」そのものに意識が高い、もしくは、気を配っているのかもしれない。

いずれにせよ、保護者の「子どもがパソコンを使用する」ということに対する意識が、未就学児のパソコン利用やパソコン遊びに大きな差を生んでいることと、そして、未就学児がパソコンを使用する是非ではなく、保護者の無関心が、未就学児のパソコン利用やパソコン遊びにとっては危険であるということが明らかになった。

次に、家庭におけるパソコン遊びの内容についてのアンケート結果を示す。

子どもがパソコンを使って何をしているかをたずねたところ、ゲームが圧倒的に多く、次にお絵描きソフトでの遊び、そして数字やことば遊び等の知育ソフトで遊んでいるという姿が明らかになった（Table.4参照）。家庭での子どものパソコン遊びは主にゲームであるが、ゲーム専用機の代わりか、オンラインゲームなのかまでは今回は問うてはいない。

**Table.4　パソコンで何をしているか（複数回答あり：単位：人）**

| | メディア活用園の子ども | メディア非活用園の子ども | 計 |
|---|---|---|---|
| ゲーム | 78 | 98 | 176 |
| お絵描き・ぬり絵 | 45 | 56 | 101 |
| 数字・ことば遊びソフト | 25 | 49 | 74 |
| パズル | 24 | 37 | 61 |
| 音楽 | 21 | 24 | 45 |
| 写真の編集 | 1 | 8 | 9 |
| マルチメディア絵本 | 3 | 5 | 8 |
| その他 | 26 | 45 | 71 |

なお、その他に多かった内容は、「インターネットの閲覧」と「DVD鑑賞」であった。また、「英会話や英語に関するソフト」も挙がっていた。

インターネットに接続して子どもが見ているホームページは、主にテレビ番組やキャラクターに関するサイトであった。また、YouTubeや動画サイトという回答も見られた。メディア活用園の子どもの閲覧先には幼稚園や保育所のホームページも挙げられていた。

同時に、子どもが最初にパソコンを使った内容についても同様の項目で質問したが、ほぼ同

じ順位での結果になっていた。

パソコン遊びの際に、保護者が特に注意をしていることや、子どもとの約束事について尋ねた結果がTable.5である。

**Table.5　子どものパソコン遊びに関するルールや約束事（単位：%）**

| | メディア活用園 | メディア非活用園 |
|---|---|---|
| 時間を制限している | 43.8 | 44.7 |
| パソコンに近づきすぎない | 29.4 | 27.9 |
| 分からないことは聞く | 16.7 | 18.7 |
| その他 | 10 | 8.8 |

メディア活用園・非活用園を問わず、「時間を制限する」「パソコンに近づきすぎないようにする」が上位を占めた。その他の回答で多く見られたのは、「勝手に決めたところ以外のホームページにはいかない」「勝手に他のボタンを押さない」「変なところをクリックしない」「大切に扱う」「飲み物や食べ物を近くに置かない」などであった。

家庭で子どもがパソコンで遊ぶ姿や内容は、メディア活用園に子どもを通わせる家庭でも、非メディア活用園に子どもを通わせる家庭でも似たようなものであり、約束事やルールもほぼ同じ傾向であるが、保護者と子どもとパソコンの三者関係において若干の違いが見られ、メディア活用園の保護者は、子どもをパソコンと１対１の関係にとどめず、自分も積極的に子どものようすを同じ場所で見たり、時には会話を楽しんだりしている傾向が若干あることが明らかになった。

### （２）保護者の「子どもがパソコンを使用する」ことに対しての意識調査

ここからは、パソコンを家庭で使用している子どもをもつ保護者（メディア活用園30.1%，非メディア活用園32.1%）の意識について、特に幼児がパソコンを使うことについてどのように感じているのか、また、実際に子どもの姿がどう見えているのかについて調査した結果について報告する。

自分の子どもが家庭でパソコン遊びをしている時の子どもの姿について、どのように見えているのかについて尋ねた結果がTable.6である。

**Table.6　パソコンで遊んでいる時の子どもはどんな風に見えますか（単位：%）**

| | メディア活用園 | メディア非活用園 |
|---|---|---|
| 楽しそうである | 78.6 | 70.1 |
| ひとりの世界に入っている | 13.4 | 19.2 |
| 笑顔も見せず真剣である | 6.3 | 9.6 |
| イライラしているようである | 0 | 0.6 |
| その他 | 1.8 | 0.6 |

概ね、楽しそうに見えている保護者が多いが、メディア活用園の保護者より非メディア活用園の保護者の方が「ひとりの世界に入っている」ように見えているようである。このような見え方は、子どもが家庭で遊んでいる時に保護者や兄弟等がどのようにかかわっているかと関連性があるように思われる。

子どもが家庭でパソコンを使用している家庭の保護者に対して、「子どもにパソコンを使わせる」ことについて尋ねた結果がTable.7である。

**Table.7　子どもにパソコンを使わせることについてどう思うか（単位：%）**

| | メディア活用園 | メディア非活用園 |
|---|---|---|
| 使わせた方がよい | 50.0 | 42.1 |
| どちらともいえない | 43.8 | 46.9 |
| 使わせない方がよい | 6.6 | 10.9 |

「使わせない方がよい」と回答した保護者は、メディア活用園で6.6%、非メディア活用園でも10.9%にとどまった。家庭でパソコンを使わせることについて、多少の差はあるが、実際に家庭でパソコンを使わせている保護者は、パソコンは子どもには使わせない方がよいとは考えないようである。また、メディア活用園の保護者は「使わせた方がよい」を、メディア非活用園の保護者は「使わせない方がよい」と回答する割合が若干多くなる。

いずれの回答にせよ、その理由は「今の時代必要」「将来的に知っておいた方がよい」「将来的になじんでほしい」といった、現在の社会に対応できるようにという思いや将来のためと考える保護者の思いがある。しかし、「どちらともいえない」と回答する保護者にとっては、必要性や将来のことを考えると同時に「幼児期にはもっと他に必要なことがあるので、慣れ親しむ程度でいい」に代表されるように「少し早すぎる」「外遊びや学習やパソコンとのバランスが大事」「視力の低下」「夢中になりすぎたら困る」「深入りしてしまったら嫌だ」といった視力を含む体力や健康面での心配や、まだ幼児期であるということ、年齢による精神面・情操面への影響といった不安を挙げていた。

中には「使い方次第」「コミュニケーションのツールの一つとして使うならOKだが、大人が身近にいることが大事」「親と一緒に使うなら」といった、保護者である自分の態度をふまえている回答もみられた。

保護者は、自分の子どもがパソコンで遊んでいる姿を見て、楽しそうだと思いつつも、実際のところ、使わせてよいのかどうかについては、全面的に賛成しているわけではない。むしろ、心身の健康面や生活の中でのバランスを重視しながら使わせているつもりであるという意識をもっているようすが明らかになった。

また、子どもがパソコン遊びをしている、いないにかかわらず、すべての保護者について、子どもが接するメディアの中で、教育テレビ、テレビゲーム、パソコン、インターネットの4つのメディアについてどのようなイメージをもっているかを5件法にて調査した。その結果を、「非常にそう思う」を1とし、以下「非常にそう思わない」を5として得点化した平均値、および、

メディア活用園と非メディア活用園の平均値に差があるかどうかを調べたt検定の結果をまとめたものがTable.8である。

Table.8　保護者がもつメディアについてのイメージ

| 教育テレビについて | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | メディア活用園 | 非メディア活用園 | t値 | p<.05 | |
| 学ぶことが多い | 1.88 | 2.00 | 2.376 | 0.018 | * |
| 外遊びが増える | 3.46 | 3.58 | 2.127 | 0.034 | * |
| 家族や友達とのコミュニケーションが増える | 2.74 | 2.81 | 1.270 | 0.205 | |
| 道徳・情操面で良い影響がある | 2.14 | 2.20 | 1.336 | 0.182 | |
| 健康面への影響はない | 3.34 | 3.51 | 2.777 | 0.006 | * |

| TVゲームについて | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | メディア活用園 | 非メディア活用園 | t値 | p<.05 | |
| 学ぶことが多い | 3.59 | 3.73 | 2.194 | 0.028 | * |
| 外遊びが増える | 4.46 | 4.52 | 1.153 | 0.249 | |
| 家族や友達とのコミュニケーションが増える | 3.36 | 3.54 | 2.293 | 0.022 | * |
| 道徳・情操面で良い影響がある | 3.64 | 3.82 | 2.969 | 0.003 | * |
| 健康面への影響はない | 4.38 | 4.47 | 1.816 | 0.070 | * |

| パソコンについて | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | メディア活用園 | 非メディア活用園 | t値 | p<.05 | |
| 学ぶことが多い | 2.65 | 2.80 | 2.516 | 0.012 | * |
| 外遊びが増える | 4.19 | 4.22 | 0.731 | 0.465 | |
| 家族や友達とのコミュニケーションが増える | 3.26 | 3.50 | 3.608 | 0.000 | * |
| 道徳・情操面で良い影響がある | 3.13 | 3.25 | 2.021 | 0.044 | * |
| 健康面への影響はない | 4.10 | 4.26 | 2.817 | 0.005 | * |

| インターネットについて | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | メディア活用園 | 非メディア活用園 | t値 | p<.05 | |
| 学ぶことが多い | 2.64 | 2.72 | 1.148 | 0.251 | |
| 外遊びが増える | 4.24 | 4.28 | 0.747 | 0.455 | |
| 家族や友達とのコミュニケーションが増える | 3.35 | 3.48 | 1.929 | 0.054 | |
| 道徳・情操面で良い影響がある | 3.31 | 3.44 | 2.249 | 0.025 | * |
| 健康面への影響はない | 4.14 | 4.29 | 2.538 | 0.011 | * |

保護者がもつイメージ調査の結果は、メディア非活用園の保護者の方がすべてのメディアについて、得点化した際の平均値が高く、ややネガティブなイメージをもっていることが明らかになった。しかし、メディア活用園の保護者、非メディア活用園の保護者がまったく異なるイメージをもっているわけではないことも明らかになった。保護者のイメージとして共通に挙げられるのは、1）どのメディアも「外遊びが減る」「目が悪くなるなど健康へ影響がある」と思う　2）テレビゲーム以外のメディアについては「学ぶことが多い」と思っており、特に教

育テレビについては「学ぶことが非常に多い」と思う　3）道徳・情操面で良い影響があると思うのは教育テレビのみであるという傾向が見られた。

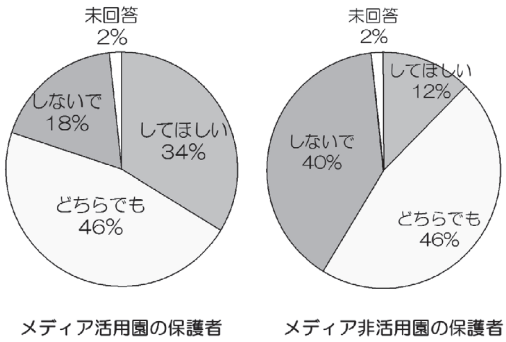
さらに、パソコンとインターネットについては別々にイメージをたずねたが、特に大きな違いは見られなかった。これは、家庭に限らず、現代のパソコンはインターネットに接続されていることが多いため、特に意識して考えていないのかもしれないと考える。

さらに、t検定の結果、特に有意差（$p<.05$：両側検定）が見られたのは、教育テレビについては「学ぶことが多い」「外遊びが増える」「健康面への影響はない」の３項目、TVゲームについては「学ぶことが多い」「家族や友達とのコミュニケーションが増える」「道徳・情操面で良い影響がある」「健康面への影響はない」の４項目、パソコンについては「学ぶことが多い」「家族や友達とのコミュニケーションが増える」「道徳・情操面で良い影響がある」「健康面への影響はない」の４項目、インターネットについては「道徳・情操面で良い影響がある」「健康面への影響はない」の２項目であった。これらの項目については、メディア活用園の保護者と非メディア活用園の保護者との差があるとみられ、特にパソコンについては「家族や友達とのコミュニケーションが増える」ことに対しては$p<.01$においても有意差が見られることが明らかになった。

### （３）保護者の「幼稚園や保育所で子どもがパソコンを使って遊ぶ」ことに対しての意識調査

保護者の意識のまとめとして、最後に、幼稚園や保育所におけるパソコンを使った遊びについてどのような意識をもち、また、幼稚園や保育所にどのような保育内容を求めるかについて調査した結果について報告する。

まず、幼稚園や保育所で子どものパソコン遊びを導入することについての結果は、Fig.1のとおりである。特に非メディア活用園の保護者は、家庭において子どもにパソコンを使わせることには肯定的／どちらでもよいと答えていても、やはり幼稚園や保育所では子どもにパソコンが使用しないでほしいと考えていることが40％にのぼった。また、メディア活用園に子どもを通わせていても約18％の保護者は「パソコン活用はしないでほしい」と答えていることも明らかになった。




| | 活用園 | 非活用園 |
|---|---|---|
| してほしい | 33.6 | 12.4 |
| どちらでもよい | 46.4 | 46.2 |
| しない方がよい | 18.4 | 39.8 |

**Fig.1　保育現場でのパソコン遊びについての保護者の考え（単位：％）**

上記で「しない方がよい」と回答した理由についての自由記述を見ると、大きく次の４つに分類された。1）「他に学ぶことがあるから」「他に優先的に取り組むことがあるから」「他のことを確実に」「もっと基本的なことに力を入れてほしい」「家では学べないことを体験させてもらいたい」といった、保育におけるパソコン活用の優先度の低さ、2）「外遊びをしてほしいから」「体を使って遊んでほしいから」「目が悪くなる気がする」「電磁波が心配」といった身体の発達面への影響、3）「まだ早い」「小学生になってからでも十分遅くはない」といった年齢による考え方､4）「子どもどうしのふれあいを大事にしてほしい」「お友達とコミュニケーションをとりながら遊ぶことが大事」「孤立しそう」といった、人とのふれあいが少なくなることへの懸念、が挙げられた。また、少数ではあるが「保育士に負担をかけたくない」「（パソコンの知識や活用について）幼稚園の先生では時間的な理由などから無理だと思う」という、保育者への負担を配慮する意見も見られた。

逆に、保育の中で「メディアを活用してほしい」「どちらでもよい」と回答した保護者に対しては、どのようなに保育の中にパソコンを使えばよいかを尋ねた。

その結果、メディア活用園、メディア非活用園ともに、子ども２～３人にパソコン１台という環境（Fig.2参照）のもと、週１回30分程度（Fig.3及びFig.4参照）が適当だとまとめられた。また、その内容は「知育ソフト」や「パズル」､「お絵描きソフト」を使った遊びを選択している（Fig.5参照）。そして、子どものパソコン利用で育ってほしいと期待していることは､「共同の遊具や道具を大切にし、みんなで使う」「生活の中で、様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ」「様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む」が上位に挙がった。

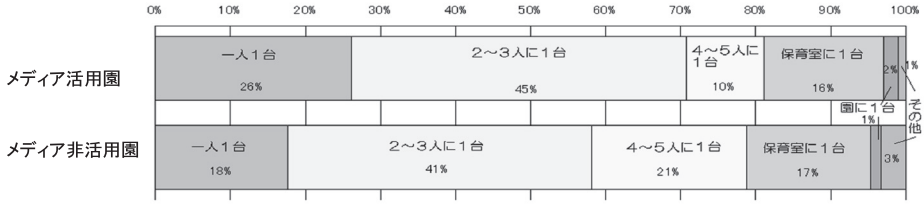



**Fig.2　保護者が考える、保育現場にパソコン遊びを導入する環境（1）**
**パソコン１台に対する子どもの割合（単位：%）**

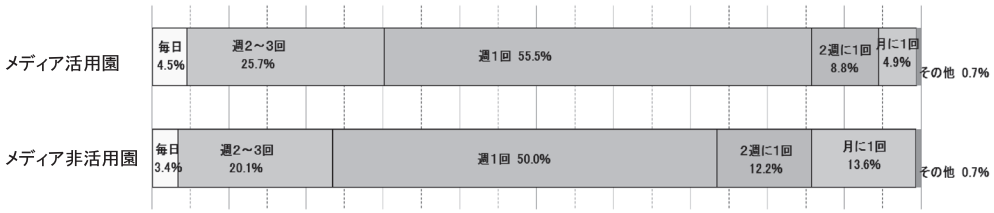



**Fig.3　保護者が考える、保育現場にパソコン遊びを導入する環境（2）**
**パソコン遊びの頻度（単位：%）**

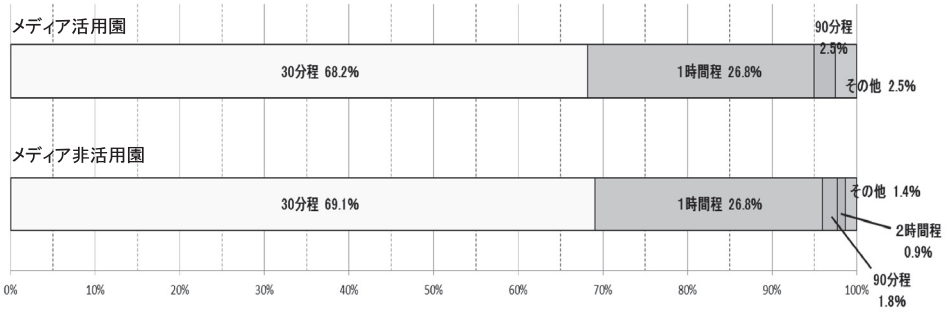



**Fig.4　保護者が考える、保育現場にパソコン遊びを導入する環境（3）**
**1回あたりの遊びの時間（単位：%）**

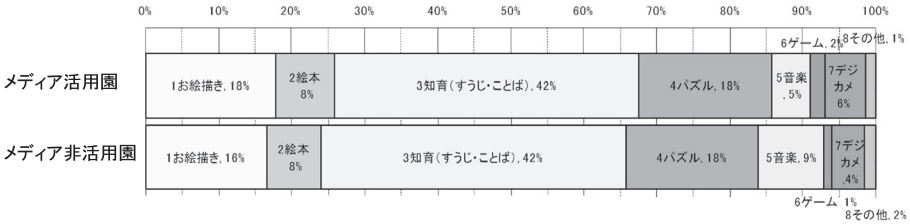



**Fig.5　保護者が考える、保育現場にパソコン遊びを導入する環境（4）**
**遊びの内容（単位：%）**

Table.9に示した項目は、すでにパソコンを活用している幼稚園や保育所がそのねらいとして掲げているものの中で、幼稚園教育要領および保育所保育指針のねらい及び内容から該当するものを調査し、検討したうえで選択肢を構成している。なお、保護者にはそのことは知らせていない。

メディア活用園の保護者とメディア非活用園の保護者で意識が異なる点としては、次の３点ではないかと考える。それは、１）自分で考え、自分で行動するためのツール、２）イメージや言葉を豊かにするツール、３）友達と共通の目的のもと工夫や協力するためのツール、というイメージがメディア活用園の保護者にはみられることである。

村上・松山ほか（2010）の研究では、幼稚園及び保育所の保育者を対象に「保育にメディアを導入することで育つことが期待される内容」に関する調査を行っている。幼稚園教諭には幼稚園教育要領の５領域の内容を、保育所保育士には保育所保育指針の５領域の内容をそれぞれ項目として問うているので、単純比較はできないが、保育者が考えるねらいの上位には、保護者の回答で上位に来る、「共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う」（幼稚園30.2%，保育所22.5%）や「生活の中で、さまざまな物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ」（幼稚園30.7%，27.5%）「日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」（幼稚園25.4%，保育所24.2%）「自分で考え、自分で行動する」（幼稚園20.6%，保育所14.0%）などの項目ではなかった。幼稚園への調査では、「様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む」及び「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」が56.1%の幼稚園教諭から「期待される」と回

**Table.9　保護者が考える、保育現場にパソコン遊びを導入する環境（5）**
**育つことが期待される内容（複数回答あり：単位：回答者数の割合　%）**

| | メディア活用園 | メディア非活用園 | 計 |
|---|---|---|---|
| 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う | 42.4 | 37.7 | 39.9 |
| 生活の中で、さまざまな物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ | 31.9 | 32.5 | 32.2 |
| さまざまな活動に親しみ、楽しんで取り組む | 31.0 | 27.5 | 29.2 |
| 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ | 25.4 | 24.2 | 24.8 |
| 自分で考え、自分で行動する | 26.3 | 21.9 | 24.0 |
| 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ | 25.2 | 21.9 | 23.5 |
| いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする | 26.6 | 20.5 | 23.3 |
| 感じたこと、考えたことなどを音や動きで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする | 23.8 | 21.5 | 22.6 |
| 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする | 24.5 | 18.8 | 21.5 |
| いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ | 19.3 | 16.6 | 17.9 |
| 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ | 16.1 | 14.7 | 15.4 |
| したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなど、したことを自分なりに言葉で表現する | 15.9 | 12.0 | 13.8 |
| よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する | 15.9 | 9.3 | 12.4 |
| 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう | 7.9 | 5.8 | 6.8 |

答されており、ともに１位である。また、続くのは「危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する」の45.0％である。

保育所への調査では、「保育士等と一緒に歌ったり、手遊びしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ」が全体の61.8％、「様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む」が全体の50.0％の保育所保育士から「期待される」と回答されていることが明らかになっている。

以上より、保護者がもつパソコン遊びのイメージとそのねらいから、パソコン遊びは自分で考え、自分で行動する時に有効なもの、また、知育的なものであるというイメージがあることがうかがえる。そして、保育現場で活用するにあたっては、ものを丁寧に扱うことや、仲間とみんなで使うこと、自立することといった、生活の基本や人間関係の育ちが期待できるのであれば使ってもよいかもしれないという結果が見えてきた。

## ４．本研究のまとめと展望

幼稚園や保育所によるメディア活用については、小学校以上と違い、かなり否定的であり、パソコンの導入についても、ようやく保育者が保育のために活用することは見られてきても、子どもに活用させるという考え方は非常に少数派である。しかし、パソコン遊びのメリットが分かれば導入したいところもあることが分かっている（村上・松山ほか2010）。

保護者への意識調査や家庭での子どものパソコン利用の調査をとおして考えると、保育現場には次のような提言ができるのではないかと考える。

### １）パソコンとの出会いをよいものにするために

子どもは家庭ではパソコン遊びを３歳あたりから体験しており、メディア非活用園の保護者でも6割が保育へのパソコン導入には反対はしていないことが明らかになった。ただ、健康面、精神面や情緒の発達、社会性の発達から考えるとやはり「幼児がパソコンを使うことは時期尚早ではないか」と考えている保護者も少なくはない。しかし、パソコン遊びをとおして「ものを大切に扱う」ことや「身の回りのさまざまなものや数字等に興味をもってほしい」など、子どもの育ちにプラスになるとイメージしている保護者も少なくない。このような保護者の意識から、幼稚園や保育所では何ができるであろうかを考える時期に来ていると思われる。

メディアとの最初の出会いは特に重要である。メディア活用については、最初にしっかりと大人と子どもとで話し合うことが大事であるという考え方は、子どもの携帯電話利用に関するマナーやモラルの問題や、いわゆる「ケータイ依存」に陥る子どもたちの例を見ても明らかである。

メディアとの出会いを家庭に任すのではなく、幼稚園・保育所もともに考えることがこれからは大事ではないだろうか。家庭と連携しながら、家庭に任せている子どものメディア活用について、どう考えるか、また、大人の役割は何かをともに考えることが必要となる。

### ２）メディアを活用した保育実践のために

園の特色としてパソコン遊びを保育に導入しても、家庭でやっているから必要ないと保護者が感じるようなことでは意味がない。

優れた保育を実践している例を参考にメディア活用を導入することも一つの考えだが、今回の調査で見られたような、保育のねらいや内容の１つとしてパソコンを活用することも可能であろう。その際、園生活の他の活動とのバランスをふまえて、時間とルールを守って、仲間と楽しく遊ぶという経験を大事にしたい。このような経験が、子どもをパソコンにのめりこませることなく、バランスよくメディアを生活の中で使う第一歩となるであろう。

### ３）保育者養成における「情報機器の操作」「教育の方法と技術」のカリキュラムのために

幼稚園教諭や保育士資格の取得のためのメディア活用に関する科目のカリキュラムでは、幼児がパソコンを使うというイメージができないために、保育者としてのパソコン活用スキルの習得に終始したり、ただメディア活用を否定したりするのみにとどまってしまってはならない

のではないだろうか（松山・今井2001など）。

保護者の意識や保幼小連携も見据えながら保育でのメディア活用の可能性を探ることや、保護者とともに考えることが可能な幼児期だからこそ保育者と保護者がともに子どものためにメディア活用について考えることを踏まえた学びが今後ますます重要になってくるであろう。

本研究は、平成21 ～ 23年度科学研究費補助金（21500919 基盤研究（C））『保育でのメディア活用に関する教育方法・技術をパッケージ化したカリキュラムの開発』（代表　堀田博史）による研究の一部である。

**引用・参考文献**

堀田龍也・潟辺美由紀（1999）「幼児がマルチメディアに触れることに対する保護者の意識と行動」『富山大学教育実践研究指導センター紀要』16，pp.33-37.

小平さち子（2009）「幼児教育におけるメディア利用の課題と展望」『放送教育と調査』209年７月号，pp.90-105.

松山由美子・今井亜湖（2001）「保育者養成短期大学における情報教育カリキュラム（２）」『名古屋柳城短期大学研究紀要』No.23，pp.145-160

松山由美子・今井亜湖（2000）「保育者養成短期大学における情報教育カリキュラム」『名古屋柳城短期大学研究紀要』No.22，pp.125-136.

松山由美子･村上涼ほか（2010）「子どものメディア利用に対する調査（２）保護者へのアンケートより」『日本保育学会第63回大会研究論文集』pp.527.

村上涼･松山由美子ほか（2010）「子どものメディア利用に対する調査（１）保育者へのアンケートより」『日本保育学会第63回大会研究論文集』pp.526.

内閣府（2010）『青少年のインターネット利用環境実態調査』

西村規子（2010）「報告　乳幼児期（０－５歳児）のメディアライフ」『放送研究と調査』2010年６月号，pp.25.

渡辺誓司（2010）「特集　2010年春の研究発表・シンポジウム　家庭内多メディア共存時代のいま　テレビ番組・ゲームと家族コミュニケーション」『放送研究と調査』2010年６月号，pp.24-41.

# The Result of an Investigation into Children's Personal Computer Use
## —A Questionnaire by Parents of Children from 3 to 5 Years of Age—

Yumiko MATSUYAMA, Ryo MURAKAMI, Hiroshi HOTTA,
Hideya MATSUKAWA, Takehiro MORITA, Koichi YOSHIZAKI

There are some studies of computer use (media use) with young children, but most of them are focusing on a school children rather than the preschoolers. This study clarified the actual condition about preschoolers' personal computer use at home, through the investigation on questions. A hypothesis of this study is, that the actual condition of preschoolers' personal computer use is greatly influenced by the parents' way of childrearing and how they think of their own child.

Survey results showed that 1) Japanese child plays in game software, drawing software, cognitive education software for PC. And the child touches the PC at the age of about 3 years old for the first time. 2) If parents do not feel resistance to inflecting then children playing with PC in the kindergarten and the nursery school, they often the advantage of their children playing with PC at home, while they enjoy a conversation to their child and deepen them own communication. 3) 46% of parents think it is not a matter of simply Yes or No about using PC as part of the educational context childcare in a kindergarten or nursery school. The parents think that child should use PC about once at once a week for 30 minutes in a kindergarten or nursery school.

Finally, the result of this investigation was raged upon the use of in Japanese kindergarten and nursery school children for the purpose of nursery school teachers' training.

**Keywords**: The PC play of the infant at home, Infant education using media in Japanese kindergarten and nursery school